

令和5年度第10回 感染症発生動向調査協議会

令和6年1月17日

月番：馬場 尚志（感染症全般）、大野 元（STI）

1 前月の感染症発生動向について（2023年第48週～52週・12月）

<全数把握対象疾患>

- 結核は毎週報告あり（2023年累計の対前年比91.7%）。潜在性結核感染症が18例と、発症者より報告数が多かった。発症者15例では、8例が60歳以上である一方、10歳代1例、20歳代3例、30歳代2例の報告あり。
- 腸管出血性大腸菌感染症が2例報告あり（2023年累計の対前年比104.5%）。
- E型肝炎が2例報告あり（2023年累計の対前年比125.0%）。
- ツツガムシ病が第48週から第51週にかけて計7例報告あり（2023年累計の対前年比176.9%）。
- レジオネラ症は毎週2例ずつ、計10例報告あり（2023年累計の対前年比132.7%）。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症が4例報告あり（2023年累計の対前年比360.0%）。
- 侵襲性肺炎球菌感染症が5例報告あり（2023年累計の対前年比147.6%）。うち1例が0歳児（ワクチン3回接種）、4例が75歳以上の高齢者（いずれもワクチン接種歴不明）であった。
- 水痘（入院例）が2例報告あり（2023年累計の対前年比233.3%）。
- ウイルス性肝炎（A型、E型を除く）、急性脳炎、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、侵襲性インフルエンザ菌感染症がそれぞれ1例ずつ報告あり。
- 梅毒は16例報告あり（2023年累計の対前年比107.6%、対2019年比184.4%）。うち8例が早期頭症（男性6例、女性2例）であった。

<定点把握対象疾患>

- 新型コロナウイルス感染症は、第52週の定点あたり報告数は9.1であり、増加傾向である。
- インフルエンザは、定点あたりの報告数が20前後で推移し、前月比136.0%であった。
- 咽頭結膜熱は、定点あたりの報告数が2.4以上で推移し、前月比166.1%であった。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、定点あたりの報告数が2.0前後で推移し、前月比149.8%であった。

2 検討すべき課題

- COVID-19に関する感染症発生動向調査結果の県民・市民へのフィードバックについて（インフルエンザにおける対応との比較を含めて）
（事務局から）
- インフルエンザおよびCOVID-19患者報告数の増加について

3 情報提供すべき事項

- COVID-19の現状について

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ エムボックス診療の手引き 第1.0版 (<https://www.mhlw.go.jp/content/001183682.pdf>)
- ・ 令和5年度岐阜県予防接種研修会
日時：令和6年2月21日（水）14時～16時
場所：岐阜大学医学部記念会館 2F ホール
対象：県内予防接種行政担当者、実施担当者

5 その他（感染症対策推進課から）

- ・ 石川県能登地方を震源とする地震に伴う予防接種の取扱いについて
- ・ 令和6年能登半島地震における避難所や高齢者施設等でのノロウイルス感染症対策について
- ・ 令和6年能登半島地震にかかる感染症予防対策等について
- ・ エムボックスに関する情報提供及び協力依頼について
- ・ 「エムボックス 診療の手引き 第1.0版」の周知について

<検討結果>